



# NPO法人 みどりのゆび

## 会報 2022年 秋号



**コロナの克服はあるのか、伴走するのか？  
十分な感染防止対策をして、秋のフットパスをお楽しみください。**

**ご挨拶 事務局長・神谷 由紀子**

設立後20年を経て 皆様に感謝！  
進化するフットパス活動には乞う、ご期待！！

「みどりのゆび」は設立後20年を突破しましたが、今やっと安定感のある充実した組織になれたなあと心から思えるようになりました。それは理事長を初め事務局全員が隅々まで活動し、分担ごとにしっかり仕事ができるようになったからです。また会員さんの中で事務局と連携を取りながら自発的に動いてくださる方が増えたからです。

まずは理事長の知合いの有能で親切な税理士さんが面倒を見てくださることになり、毎年問題になっていた経理の効率化を図ることができるようになりました。手書き状態だった帳面を、税理士さんにすぐお渡しできるようにすべてデジタルに直しました。当会の経理は誰もが経理全般を安心して見渡せることができるようになったのです。

新しいホームページにも移行できました。見やすくなってアクセス回数が増え、会員やマップ購入の申し込みが目に見えて増加しました。ウォーキングにも、固定客だけでなくいろいろな方が参加してくださるようになりました。

会のスケジュールもきちんと管理されるようになったので、会報を初めイベントのスケジュールが速く明確に定まるようになり、会はストレスなく活動ができるようになりました。

会報は元編集者が毎回厳しく作成するようになり、印刷も美しく、大変評判がいいです。最近、「みどりのゆび」のマップを販売している本屋さんでも会報を置いてくれることになりましたが、すぐになくなるそうで本屋さんも喜んでおられます。発行部数を増やして、もっと広く見ていただけるようにしようかなとも考えています。

事務局は絆が強くなり、充実して仕事ははかどるようになっただけでなく、時間のかかる発送などの作業やフットパスコースの開発なども分担できて、活動ののびしろも増えました。経理もしっかりした人材にお任せできるようになりました。

難しい緑地管理の運営も、常連の会員さんのグループがしっかり自然管理も、人的管理もまとめてくださるようになり、安心してお任せできるようになりました。

適切なリーダーシップがあると組織はこんなにも安定化するということを目の当たりにしました。「みどりのゆび」の幸運は、設立以来優れた方たちにサポートしていただけたことと、今もいい人材が集まってくださっている稀有な団体だということだと思っています。





フットパス専門家講座  
生田緑地から明治大学登戸研究所  
資料館へ

〔講師：高見澤 邦郎〕

進化する田園地帯を歩き  
戦後の遺物に想いをはせる

3月5日(土) 天気：晴 参加者：11名

10時に向ヶ丘遊園駅（南口）集合。その、二段勾配になっているマンサード屋根の駅舎は、一緒に浅黄美彦さん（今回も建築の解説を依頼）によれば、「北口駅舎（1927年につくられ最近改修）に倣って改築されたばかり」だそうです。南北にレトロモダンな駅舎が揃ったわけですね。



小田急線向ヶ丘遊園駅南口駅舎（写真：浅黄）

駅から15分ほど歩いて「生田緑地ビジターセンター」に到着。展示をちょっと見て枳形山へ。木々の名前を確かめながら急坂をゆっくり登って広場に到着、展望台へ上りました（エレベーターで！）。良い天気でしたので西に富士山、東に筑波山の展望を期待しましたが、春一番とかで霞んでおり、新宿の超高層ビル群もおぼろ……、残念。



枳形山の広場にて（写真：田邊）

中央広場下って、昼過ぎに西口広場再集合と決め暫時解散。何人かは「民家園」を散策しつつ、移築された白川郷民家でお蕎麦の昼食。



合掌造り家屋の蕎麦屋で昼食



岡本太郎美術館／西口広場

「岡本太郎美術館」前庭の広場に再集合した後、ゴルフ場に沿って進み（少し降りて、また少し登って）、「明治大学生田キャンパス」正門に到着。



明治大学生田キャンパス正面（写真：田邊）



ここは敗戦まで「陸軍登戸研究所」でしたが、明治大学が1951年にこの土地を取得し、理工学部・農学部を開設（校舎のいくつかは分離派\*の建築家であり茶室の研究者としても知られた堀口捨己の設計）。

構内に一部残っていた戦時の施設が順次取り壊される中で、その記憶を残すべきとの声が高校生も含む地域住民からあがり、2010年に「明治大学平和教育 登戸研究所資料館」として開館されることに。風船爆弾、偽札製造など当時の資料が展示解説されていて、種々の思いを抱かせます。

\* 分離派：1920年、東京帝大卒の堀口・山田など若き建築家6人がコンドル先生以来の西洋建築中心の教育を否定。世紀末のウィーンに勃興したセセッションを学び、新たな建築を求める＜分離派建築会＞を結成した。



明大登戸研究所資料館

明大の南通用門を出て少し行くと長沢浄水場（これまた分離派建築家の旗手だった山田守の設計／川崎市と東京都の浄水施設が共存）。ここへは、相模川の水が津久井湖から多摩ニュータウンの尾根導管を経て来ています（笑い話：小山田の鶴見川源流の池にはこの導管からの漏水も流れ込んでいる？）。



長沢浄水場 （写真：田邊）

浄水場の脇を歩いて今日最後の目的地、作家の「庄野潤三旧宅」の前へとたどり着きました。庄野は1963年、畑と雑木林の山に一軒家を建てて「山の上の家」と名付け、東京練馬から移り住んだのです。『夕べの雲』など後期の数々の名作を書き、ここで生涯を終えることに（鶴川に住む河上徹太郎との交流も美しく）。偶々長男の龍也さん（小説では明夫）が外出されるところで、言葉を交わすこともできました。

さてこれで本日の約10キロのフットパスも終了。皆さん、三々五々、生田駅への道を下りました。

（文と写真の一部：高見 澤邦郎）



山の上の家（庄野潤三旧宅）

## 「登戸研究所資料館」を見学して

この資料館は、かねてから見学したいと思っていた場所です。風船爆弾がなぜ誕生しアメリカまで飛んだのか知りたかったのです。

ところで夫は那覇生まれで、8歳のころ、米軍の攻撃を前に80 km先の山原（ヤンバル）に疎開し、途中、ガマ（洞窟）で休んだり日本軍のトラックに乗せてもらったりしたそうです。そのくらいのことしか話してくれていませんが……（他方、戦後の母親たちの逞しい暮らしぶりはよく話してくれました）。漸く那覇に戻れたのは6年後だったとか……。幸いに家族はみな無事で。

夫は明治大学の卒業生ですが、自分の体験を思い出すので資料館には行きたくなかったのでしょう。ですので、私にとっては初めての見学の機会となりました。風船爆弾が数百個も米国本土に到着し、細菌兵器を積む計画もあったことを知り、またその他の展示品を見学して、このような歴史は、忘れたくても忘れてはいけないと思ったところです。

（文：名城 千穂）



フットパス専門家講座  
 小金井国分寺崖線（ハケ）と  
 小金井桜・多磨霊園  
 [講師：浅黄 美彦]

多摩川が武蔵野台地を削って  
 できた国分寺崖線の魅力とは？

3月27日(土) 天気：曇 参加者：9名

10時にJR中央線武蔵小金井駅に集合。駅前広場の地図を見ながら、小金井フットパスコースのねらい「大昔の多摩川が武蔵野台地を削ってできた置き土産、国分寺崖線（ハケ）の魅力と多磨霊園の楽しみ方」について、簡単に説明しスタートしました。



六地藏と小金井の解説

黄金に値する豊富な水が出るから黄金井、そこから「小金井」という地名となったという。「六地藏」のある深井戸からの水をいただきました。少し南に歩き、国分寺崖線に建つマンション「小金井スカイコーポラス」へ。ここでの見どころは、旧道沿いにある緩やかに曲がる「質屋坂」と小金井街道の前坂の直線の坂。



質屋坂

「質屋坂」を下って細道を東へ行くと小金井街道前坂をくぐるトンネルへ。ここを抜け、「はけの森緑地」に繋がる。街道の西側のマンションと東側の保存緑地のコントラストも面白い。

「はけの森緑地」から少し北へ戻ると崖下に「金蔵院」がある。市内最初の小学校が置かれ、その後は小金井村役場としても使われていた。境内の枝垂れ桜が満開でした。



金蔵院での集合写真（写真：田邊）

さらにハケ沿いを東へ進むと「旧谷口家」、崖沿いにある旧家あるいは別荘か。細道を南へ下ると「小金井神社」。神社の奥には弓道場がある。



旧谷口家



小金井神社（写真：田邊）



さらに南に進むと「野川」。川に架かる朱色の欄干が美しい「天神橋」が見える。



野川と天神橋

「野川」からハケの小路を北へもどると崖沿いにある「はけの森カフェ」・「旧中村研一邸」に着く。斜面の緑地と湧水を守るための理想の家のような旧画家の家を改装したカフェで、ケーキと珈琲をいただきました。



はけの森カフェ・旧中村研一邸  
1959年竣工 設計：佐藤秀三

「野川」が流れる「都立武蔵野公園」で昼食をとり、午後は「東八道路」を越えて「多磨霊園」へ。

ここは大正12年に開園した日本初の公園墓地です。著名人の墓をいくつか巡り、園路、広場、軸線、ランドマークの噴水塔など、武蔵野の地形を生かした公園墓地を堪能しました。



多磨霊園：噴水塔

締めくくりは旧「多磨墓地休息茶屋」をリノベーションしたカフェ「ゆめたま」に立ち寄る。西武多摩川線多磨駅（旧多磨墓地前駅）で解散。



旧多磨墓地休息茶屋

（文と写真：浅黄 美彦）

## 自然が豊かな国分寺崖線を堪能 入念な下調べに感謝

大変楽しい会に参加させて頂き誠に有難うございました。事前に詳細なご案内と地図をいただき楽しみにしておりましたが、実際歩いてみると、興味深く見所満載のコースでしたね！

自然豊かな「はけの森」や小路、由緒ある神社仏閣では美しいお庭やめずらしい大木の枝垂桜も見ることが出来、野川縁歩きと共に、私には、一年分の木々や草花を楽しめた思いです。

また、お洒落なカフェで、ホッと一息和やかな時間を過ごせたのもうれしい事でした。五感が潤う充実のフットパスになりました事は、事前の入念な下調べのご努力があってのお蔭と感謝申し上げます。有難うございました。

（文：松本 美津子）



他のまちのフットパスをみてみよう  
 渋沢栄一の愛した飛鳥山  
 [講師：鈴木 由美子・八田 三枝子]

王子・飛鳥山の今と昔を歩く

4月9日(土) 天気：晴 参加者：11名

2020年飛鳥山で【飛鳥山300年展—吉宗が作った江戸のワンダーランド】が開催されました。1720年は吉宗が初めてここに桜を植えた年です。後、楓や松を植えて景観を整え11年後に庶民に開放しました。「王子稲荷神社」、「王子神社」から「飛鳥山」にかけて茶店や料理屋が並び、多くの人たちが行き交い賑わいました。

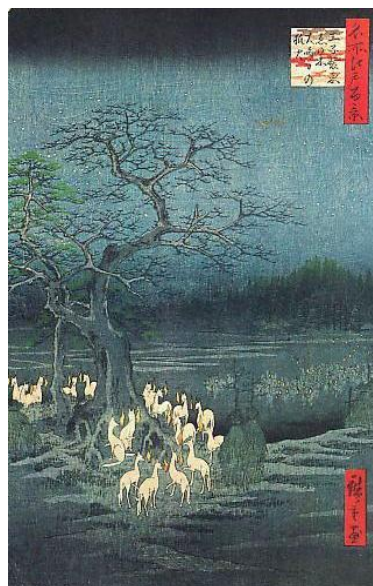
明治には渋沢栄一が住み、海外からの要人を饗し、徳川慶喜も訪れて写真に収めています。

スタートは「王子駅前公園」。ここから「装束稲荷神社」に向かいます。この公園は渋沢が製紙工場を作るため、石神井川まで来ていた千川用水をここまで引き池にした所。二つの川が利用出来た事もあり、渋沢はここ王子に製紙会社を作りました。「洋紙発祥の碑」があります。



王子駅前公園にて今日のコース案内 (写真：田邊)

大晦日、関東一門の狐たちが「王子稲荷神社」に参詣するため榎の下で装束を整えた、と伝えられている「装束稲荷神社」は縁深い神社です。今は人間が各々狐の面を付け、【狐の行列】として「王子稲荷神社」まで初詣に向かいます。参加人数2万人。「装束稲荷神社」の太田南畝の句も面白いけれど、土産物店「ヤマワ」の壁面いっぱいの狐の面は必見です。



広重画 浮世絵  
 「王子装束の木 大晦日の狐火」



壁面いっぱいの狐の面 (写真：田邊)

「醸造試験所」は清酒の品質を高めるため明治政府が作りました。当時は酒税が全体の42%を占めていました。幕末には、ここは大砲製造所として反射炉が3層あったそうです。水車の動力で砲身に穴を穿つため千川用水を引いたが、一門も作られぬまま明治になりました。



旧醸造試験所第一工場 (写真：田邊)



『王子岸町の今昔』石鍋秀子さん作の絵地図は昭和初期の様子が分かり易い。今では石神井川は流れを三つに分け、二つは「飛鳥山」の下を流してから合流して隅田川に流れ込んでいます。石神井川が、かつては不忍池に流れていたとは。



石鍋さんの絵地図（昭和7年頃）『北区史を考へる会』発行

「飛鳥山」から西ヶ原にかけて多くの遺跡と2つの貝塚があるうち、「中里貝塚」は常識を覆す大発見だったとの事。ここは今もワンダーランドなのかもしれません。

「飛鳥山博物館」の中で解散しました。

（文：鈴木 由美子）



音無親水公園にて（写真：田邊）



飛鳥山博物館にて（写真：田邊）

## 豊かな水源の地、王子と 近代日本の産業に貢献した渋沢 栄一

スタートは「王子駅前広場」。「装束・王子稲荷神社」・「北とぴあ」・「王子神社」・「音無親水公園」・「名主の滝」・「醸造試験場跡地」・「飛鳥山公園」と無事行程を終了した。

振り返るに王子・飛鳥山は海食崖で、京浜東北線の線路を挟んで東側の大部分が東京低地、西側の大部分が武蔵野台地の東端本郷台地と二分されている。駅周辺は緑豊かな自然環境や文化資源があり、JR・地下鉄・都電・バス・首都高速道路などが集まる交通の要衝となっている。

一方でJRや幹線道路・石神井川などが駅前周辺の回遊性を阻害する要因ともなっている。また住宅密集地域における防災上の課題もあり、統一性のない駅前景観が機能向上の街づくり実現に向け、大規模な計画が進められている。

石神井川の水脈の集まる古の水の都であったこの地は、良質の水を求めた中世の豪族・豊島氏の軍事拠点として発達し、豊島氏が紀州熊野より「若一王子神社」を勧請したことで王子の名が定着した。

江戸時代に入ると八代将軍となった吉宗は江戸城入城の際、紀州に因んで付けられた地名を目にした。そして石神井川による溪谷と飛鳥山、その地形に目を付け、紀州を偲んで周辺を整備させ、「飛鳥山」は桜の名所となった。

豊かな水源に 目を向けた鹿島紡績創設者鹿島万平、製紙会社の工場を建設し近代日本の産業の基盤を築き上げた渋沢栄一。しかし、水源によりもたらされた工業の発展で渋沢の愛する老松は枯れ、公害が嘗ての桜の名所を脅かした。その歴史を見守ってきた「王子神社」の大銀杏。

今回は変遷途中の王子・飛鳥山をご覧いただきました。グランドデザインで王子・飛鳥山はどう変わのでしょうか。新たな景観を得た王子・飛鳥山にいつかまた来訪して頂きたい。

（文：八田 三枝子）



北トピアからの飛鳥山（写真：田邊）



フットパス専門家講座  
赤坂の星岡と紀尾井町の  
奥州古街道・歴史ロマン探索  
〔講師：古街道研究家 宮田 太郎〕

赤坂日枝神社のある山がかって  
「ほしがおか」と呼ばれた謎とは？

4月24日（日）天気：晴 参加者：10名

東京都内におけるフットパスとして、個人的におススメなエリアの一つが「赤坂界限」です。そこで、以前にも「NPOみどりのゆび」で訪れたコースを、さらに多摩・町田ともつながる古街道「奥州古道」を探るという視点でリニューアルしながら再び開催致しました。

当日は春の陽差しも心地良く、参加者10名がTBSの「赤坂サカス」に隣接する「赤坂Bisタワー」前に集まりました。一ツ木通りから南側に広がる緩やかな傾斜地に、勝海舟夫妻の家の跡を訪ねましたが、前回来た時にはなかった「勝海舟と坂本竜馬像」が新しく出来ていたことに少し驚きながらも、地元顕彰会の活動に感心しました。



勝海舟と坂本龍馬像（写真：田邊）

また、「赤坂氷川神社」では、播州赤穂浪士で知られる浅野家の下屋敷跡が江戸時代の初めまではここにあり、浅野内匠頭の妻・遙泉院が、討ち入り予定を胸に秘めた大石内蔵助を雪の中で見送った「南部坂の別れ」の物語の舞台であることから、皆さんと坂の上に実際に立って、しばらく往時の風景に想いを馳せました。



南部坂

神社ではちょうど婚礼も行われており、かつては赤坂中に引き出されていた珍しい山車も見られるなど、ゆったりとした時間と森に囲まれた清々しい社叢の空気を味わうことが出来ました。



赤坂氷川神社の婚礼



赤坂氷川神社の山車

昼食後は今日のコースの見所の一つ「赤坂日枝神社」のある山が、かつて「星岡（ほしがおか）」と呼ばれていたことの謎をテーマに、参拝を兼ねつつ裏側まで探索。この神社はかつて江戸城の中の最高所である紅葉山近くに太田道灌時代に祀られていたものを、徳川二代将軍秀忠が江戸城拡張の際に城外に。さらに四代将軍家綱の時代に現在地に移したものです。社殿の裏手には最近まで「皇室が大嘗祭の際に使った祭器を埋納する聖域」があったことから、何か特別な場所と考えています。ここは古くからの「北天祭祀場（北極星とその周りを廻る北斗七星の運行を元に政（まつりごと）や祭礼の実施日を決め、また繁栄を祈る場所）」だったというロマンがあります。



千本鳥居



さらに昭和時代を代表する陶芸家、料理・美食家として有名だった魯山人が、この神社の南東側に「星岡茶寮」という文化人サロンの料亭を営んでいたこともあり、この地の不思議な呼称が気に入って店名としたのでは…ともお話しました。

その後は、「赤坂御門」から「旧赤坂プリンスホテル」の建物と人工的なビオトープ公園、大久保利道が刺客に襲われた「清水谷（紀州家・尾張徳川家・井伊家屋敷跡に接する谷）」へ。



旧赤坂プリンスホテル（写真：田邊）



ビオトープ公園「清水谷公園」（写真：田邊）

また今回の一番のテーマである「多摩や町田から続く奥州古街道が、実は紀尾井坂そのものを通っていたことがわかった！」——というロマンで推定路をたどりました。それは今の天皇陛下が学習院初等科時代の体験を書かれた本『テムズと共に』の一節（赤坂御所の敷地内で“奥州街道の碑”を発見された）があることも参考になっています。

終点の「平河天満宮」や「江戸城半蔵門」へ、遠く平安～中世時代からの奥州古道が紅葉山へと延びていた？ことを想像しつつ、夕方4時過ぎに終了。やや長丁場ながら皆さん満足そうで、ほっと胸をなで降ろした半日の終わりでした。

（文と写真の一部：宮田 太郎）

## 遠い昔の歴史と現実を結ぶ 歩きにワクワク

1月に町田市小山田町に引越してきました。同僚から「町田市にフットパスがあるよ」と聞いて調べてみると、なんだか楽しそうです。さっそく宮田先生の“歴史ロマン探索”に参加させていただくことに。歩くことが好きで、いろいろなツアーに参加してきましたが、詳しい資料を作ってください、歴史的な背景を解説していただきながら歩くのは初めてです。

赤坂プリッツで待ち合せして、「勝海舟邸跡」から「南部坂」と「氷川神社」、「日枝神社」と「星ヶ岡」、「紀尾井坂」を通して半蔵門駅まで歩いてきました。勝海舟と坂本龍馬の銅像を見ると、龍馬が刀の鞘から手を放しており、最初は海舟を伐つつもりだった龍馬が伐つ気がないことを表していると教えてもらったり、歴史が苦手だった私には、たまたま引越して来た町がとても歴史がある場所であることを知ったり、徳川家康が多摩丘陵を通して江戸に向かった話はとても興味深かったです。

歴史だけでなく古道の地形がずっと丘陵を通っていることや、古道が半蔵門でぶつかっていることなどを知り、普段何気なく通っている路の、昔の姿を思い描きながら歩くことは、想像しがたい江戸時代の人々の生活を少し垣間見た気がして、とてもワクワクするものでした。

（文：谷野 知美）



街中地図を見ながら（写真：田邊）



紀尾井坂通り（写真：田邊）



他のまちのフットパスをみてみよう  
粋な文化と情緒の残る牛込神楽坂

【講師：田邊 博仁】

江戸の道、漱石の散歩道、  
石畳と黒塀の横丁を歩き、  
牛込神楽坂の歴史に触れる

5月28日(日) 天気：晴 参加者：10名

地下鉄牛込柳町駅からスタート。幸国寺へ移築した田安德川家の山門を見て、「新宿区立早稲田小学校」の道へ。関東大震災後の復興事業の素直な建物（昭和3年）で、今も使われている。現在の耐震水準でも問題ないそうです。



震災復興当時の校舎の早稲田小学校

「漱石山房通り」を進むと「漱石公園」と「漱石山房記念館」に出ます。漱石が亡くなるまでの9年間を過ごした所で、関連書籍や資料の展示、猫塚があります。漱石山房記念館内に漱石の書斎が再現され、ここで、『三四郎』『それから』『こころ』などの代表作が執筆されました。



漱石山房記念館横の漱石公園

早稲田通りと並行する東側の昔ながらの小径（奥神楽坂）がいいです。手作りで評判のおはぎ屋、赤城神社の手前にかわいらしい一軒家の小さな「ドーナツ屋」があります。食べ歩きを楽しみました。



かわいらしい一軒家のドーナツ屋さん

赤城坂から北の参道を登り、牛込の総鎮守「赤城神社」へお参りしました。再生プロジェクト（隈研吾監修、2010年完成）により建替えられた新しい神社です。



本日の参加者と赤城神社

「ラ・カゲ」の「AKOMEYA TOKYO神楽坂」で、ランチタイムです。

午後は、矢来町の「古今亭志ん朝旧宅」、文化財の「一水寮」・「鈴木家住宅」、「最高裁判所長官宅」や「尾崎紅葉旧居跡」などを見て回り、いわゆる“神楽坂界限”へ出ました。





「熱海湯」、その横の「熱海湯階段（芸者小路とも）」を登ると見番へ抜け出られます。狭いですが素敵なお店が並んでいます。

この坂を“フランス坂”と名付けたパリジェンヌ（ドラ・トーザン）がいますよ。



熱海湯階段（芸者小路、フランス坂とも）

「毘沙門天・善國寺」にお参りして、「寺内公園」へ。ここは、鎌倉時代からあった「行元寺」の跡地の公園です。江戸時代には寺の境内が町屋や遊興の場所として賑わい、神楽坂の花街の発祥の地です。



神楽坂花街の発祥の地 寺内公園

「兵庫横丁」へもどると、「ホン書き旅館」として有名な旅館「和可菜」があります。わずか4部屋ですが、多くの文豪が利用し、山田洋次の『男はつらいよ』もここで書かれました。

2016年閉店となっていました。隈研吾らによって今年（2022年）再生されます。



兵庫横丁とホン書き旅館・和可菜

神楽坂花街の歴史といくつもの石畳と黒塀の横丁を歩き、メインの「神楽坂通り」へ出ました。

本日はお疲れさまでした。

（文と写真：田邊 博仁）

## 牛込神楽坂

江戸時代の武士の居住地から庶民の遊び場へと歩く楽しみの多いコースである。古い町割りが今も残っていると聞いている。古い道や路地は入り込んでみるとそこはタイムマシンでありワンダーランドでもある。時代や時の流れが沈潜していたり、生活の積み重ねが露呈している。

私の目当ては神楽坂界限。外堀通りから「庚嶺坂」を上り「小栗横丁」へ入る。変哲もない路地だけといわゆる神楽坂らしい雰囲気が漂っている。路地中程の銭湯「熱海湯」の脇から「芸者小路」・「熱海湯階段」を上り「見番横丁」で見番を見学、「神楽坂通り」に出て「善国寺・毘沙門天」をお参り。いよいよ神楽坂散策の核心部へ。「行元寺」跡の高層マンションに囲まれた小さな「寺内公園」から界限で最も古い道、鎌倉古道の石畳の「兵庫横丁」、福井藩家老の本多家の屋敷のあった神楽坂で一番大きな「本多横丁」、花柳界の雰囲気が残っている石畳の「かくれんぼ横丁」を経て「神楽坂仲通り」、神楽坂そして飯田橋駅へ。花も実もある横丁歩き、思いっきり楽しかった。

居酒屋の「伊勢藤」の横を通ったが、ここは東京三大飲み屋の一軒。他は鶯谷の「鍵屋」、大塚の「江戸一」だが、最近はミシュランに湯島の「シンスケ」が載ったことから「伊勢藤」に代わり「シンスケ」を挙げる向きもある。

（文：岩崎 英邦）



酔石横丁と伊勢藤



フットパス専門家講座  
 スミレ博士と行く春の皇居・東御苑  
 花の咲き誇る東御苑を訪ねましょう

〔講師：山田 隆彦〕

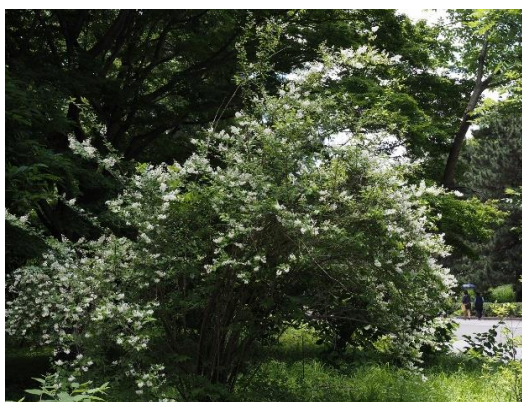
武蔵野の面影が残る二の丸雑木林や  
 日本の野生バラが季節を告げて

5月22日（日）天気：晴 参加者：10名

皇居・東御苑の中でも、私は武蔵野の面影を残している「二の丸雑木林」が好きです。ちょうどウツギが満開で、木全体が花で白くなっていました。

ウツギはスイカズラ科でしたが、新しいAPG分類ではアジサイ科に変わりました。木が古くなると茎の中の髓がなくなり空洞となります。それで「空木」の名がつけました。別名を「ウノハナ」ともいい、香りはありません。唱歌の『夏は来ぬ』にある歌詞、「卯の花の、匂う垣根に杜鵑早も来啼きて----」にある情景は「匂うように真っ白に咲く」という意味です。

「ウツギ」の名がついた植物は科の違うものにもあります。アジサイ科のウツギ以外に、ミツバウツギ科のミツバウツギ、バラ科のコゴメウツギ、ドクウツギ科のドクウツギなどです。いずれも、茎が空洞です。

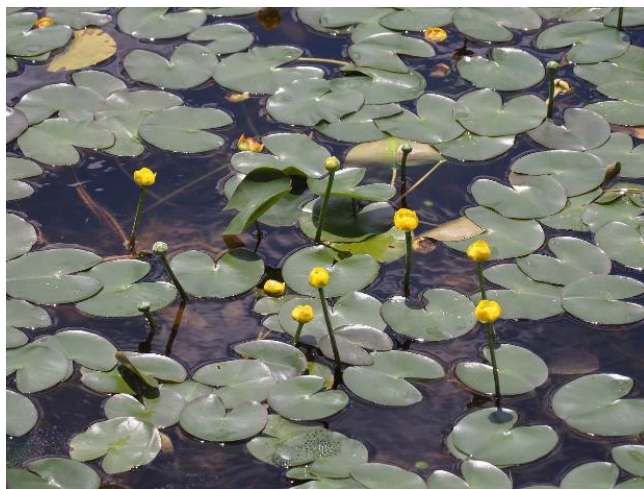


ウツギ



二の丸雑木林でのウツギ観察（写真：田邊）

二の丸庭園の池には、ヒメコウホネが花をつけていました。コウホネに花は似ていますが、葉の様子がかなり違います。同じスイレン科のコウホネ属ですが、コウホネは、北海道から九州まで分布するのに対して、ヒメコウホネは、本州と四国に生育し、両種とも日本固有種です。違いは、コウホネの葉は水面から突き出していますが、ヒメコウホネは水面に浮かんでいます。コウホネの名は、「河骨」で、太い根茎が白く、骨のように見えるからです。ヒメコウホネの根がどうなのか、私はまだ見ることはできていません。



ヒメコウホネ

バラ園には、シロバナハマナスが咲いていました。ハマナスは普通ピンク色で、白花は稀に見られる程度です。ハマナスは北海道から本州の太平洋側では千葉県まで、日本海側は島根県までの海岸の砂地にはえています。海岸の公園化で本来の野生のものが見られなくなっています。佐渡や北海道の野生しているものが、海原をバックに咲く姿は感動ものです。もう一つ、注目すべきバラがありました。イザヨイバラで、葉は日本のサンショウバラにそっくり、花は八重咲です。中国原産のロサ・ロクスブルギー・ノルマーリスという野生バラの八重咲き園芸種で、花の一部が欠けたような姿をしていることから、「イザヨイバラ」の日本名がつけました。



シロバナハマナス（写真：横山） イザヨイバラ（写真：横山）



他に、お話したい草木はたくさんありますが、特にこの御苑で気になる木は、万葉集に69首も詠まれているタチバナです。チラホラ咲き始めました。長年、花の写真を撮りたいと、植物園を訪ねるのですが、早かったり、遅かったり、まだ満開状態の花の写真が撮れていません。今年もダメでした。本州（愛知県以西）～沖縄（南大東島）の常緑樹林内に生えています。



タチバナ：香りがすばらしい。



展望台で一休み

皇居・東御苑は、四季折々の花が楽しめる植物観察に最適な所です。ぜひ訪ねられることをお勧め致します。

（文と写真の一部：山田 隆彦）



東京駅からスタート（写真：田邊）

## 江戸城の二の丸、大奥、天守台を散策しながらの植物観察

私は、「江戸城歴史フットパス」で、ここは、ご案内したことがあるので、今日は、懐かしい風景とともに、山田先生の植物観察と植物のいろいろな面白いお話をお聞きしながら、ゆっくりと散策しました。

まず、大手門から入ると、二の丸入口付近のツツジが鮮やかでした。



二の丸入口のツツジ

かつて、二の丸御殿があった二の丸雑木林、二の丸庭園をじっくり散策、ここに武蔵野の雑木林を復元しようと、昭和天皇陛下のお考えを受けて作られたそうです。



二の丸雑木林

昼食後は、展望台から富士見櫓、そして、本丸大芝生、大奥跡の脇の道の茶畑、ばら園、竹林の散策後、天守台跡へ登りました。

大手門から皇居を出て、東京駅まで歩き、ステーションホテルのカフェで一休みして解散しました。この生ビール、うまかった、お勧めですね。

（文と写真：田邊 博仁）



フットパス専門家講座  
下北線路街とその周辺を歩く  
[ 講師：浅黄 美彦 ]

変貌する下北沢と  
ひっそりとあるカトリック世田谷教会

6月4日(土) 天気：晴 参加者：15名

小田急線の地下化は2013年に完成し、その後線路跡地（地上部）のまちづくりが進められ、2022年「下北線路街」として、世田谷代田駅から東北沢駅まで約1.7キロの整備が完了しました。今回のフットパスでは、この下北線路街の新たなまちづくりを見ながら、かつての小田急線沿線風景、例えば「代田小学校」、環状7号線、スポーツジム、映画館、「金子ボクシングジム」などの記憶を重ね楽しんでみようというのが一つ目の目的です。

二つ目は、代々木八幡駅から、元代々木、西原あたり的高级住宅地に点在する建築家（吉阪隆正、横河健、槇文彦、清家清など）の設計した住宅を訪ね、戦前からの郊外住宅地の熟成のようすを眺めてきました。

昨年からのフットパス専門家講座では、小田急沿線の小田原、伊勢原丘陵、座間、玉川学園、生田、成城学園と歩いてきました。今回のコースを含めると、およそ小田急小田原線を踏破したような感じになります。



ダイダラボッチの足跡広場（世田谷代田駅前広場）

世田谷代田駅前広場から「下北線路街」の西端にある「代田富士356（みごろ）広場」の間は、遊歩道で結ばれています。その沿道には地域複合施設「世田谷代田キャンパス」、賃貸住宅「リージア代田テラス」、店舗兼事務所「カルディノ」など、このまちに必要な施設が丹念に読み込まれ配置されているような印象を受けました。特に東京農大が運営する「農の蔵」は、醸造学科のOBが手掛けた日本酒が常備され、時折訪れたくなる店になりそうです。



農大世田谷代田駅前キャンパス

「代田富士356広場」から東へ戻り、世田谷代田駅前を過ぎると温泉旅館「由縁別邸代田」がある。近くには旧家と「白髭のシュークリーム工房」があり、遊歩道の緑と相まってリゾート地にいるような気分を味わえます。



由縁別邸代田

さらに東へ歩くと幼稚園、その先に店舗兼用住宅4棟と商業棟からなる新しいスタイルの商店街「ポーナストラック」があります。敷地中央にある共用の庭には、各店舗が自由に家具やサインを設置した、イベント空間にもなる素敵な空間で小休止。かつて、線路で分断されていた密集市街地を繋ぎながら、そこにあったらいいなと思える施設や空間が配置されています。



ポーナストラック



「ボーナストラック」から鎌倉道を横切り坂道を下ると、ギャラリーやシモキタ園芸部「ののこや」が見える。野趣あふれる植栽空間が気持ちがいい。飲食店街がある「シモキタエキウエ」、駅前市場があった下北沢駅東口の暫定空間を通り過ぎ、「オーゼキ」、「本多劇場」、「あずま通り」という下北らしい細道を抜けると「ザ・スズナリ」が見えます。1981年に下北に最初に開場した小劇場。翌年には「本多劇場」がオープンします。



ザ・スズナリ

「ザ・スズナリ」の背後に「カトリック世田谷教会」がある。ロマネスク風の本造の教会堂と手作りのルルド、カマボコ兵舎を転用したかつての信徒館など、信者でなくとも思わず祈りたくなるような空間がそこにあります。



カトリック世田谷教会

下北沢でそれぞれ食事し、代々木八幡駅へ。午後の部は、元代々木、西原、上原あたり的高级住宅地を歩きました。駅前の崖上には横河健氏設計のトンネル住居と「ザ・ツイスト」、「代々木八幡神社」にお詣りし、吉阪隆正氏の「ヴィラ・クウクウ」、篠原一男、清家清など、巨匠の住宅を眺め、代々木上原駅にたどり着いて解散しました。  
(写真と文：浅黄 美彦)



代々木八幡神社 (写真：田邊)

## 小路と植栽が繋ぐ新しい街の魅力

午前中は「下北線路街」を、午後からは代々木上原近辺のハイソな住宅街を歩きました。またじっくり訪ねたいと思える歩き甲斐のある充実したコースでした。当日の暑さのおかげで帰り際に寄った打ち上げビールが美味しかったこと！

私からは、特に印象深い「ボーナストラック」について報告します。世田谷代田から東北沢あたり、小田急線の地下化に伴ってできた「下北線路街」。特に、世田谷代田駅周辺が素敵でした。それぞれに街へのコンセプトを感じる「農大世田谷代田駅前キャンパス」、賃貸テラスハウス、駅前保育園、温泉旅館、茶房や料亭、そして、「ボーナストラック」。ボーナストラックは、賃貸価格を抑えて若い人たちが住みながら商いの冒険もしやすいように企画されたのだそうです。なるほど建築は超ローコストですが、お店のエリアを区切らないオープンな小路と建物配置、植栽の外構計画が素晴らしい。最近はランドスケープにお金をかけた計画が目立ちますね。憧れのリンデンバウムの木（しかも株立ち）とリンデンバウムの花を初めて見ました！

そして、ただのオシャレな街区とは違う文化的？なお店が集まっていて、多くの人を引き寄せています。（セレクト本屋は是非また行きたいです！）

「下北線路街」を魅力的にしているもう一つの要素が、車が入らない街路をナチュラルで涼しげな植栽が各施設を柔らかく魅力的に繋いでいることです。従来の日本ではないような。でも、どこの国とも違う。新しい街の景色として広がったらいいなあと、小路と植栽の力を改めて感じました。  
(文と写真：木村 真理子)





## 他のまちのフットパスをみてみよう 谷と緑と古い町並みの四谷から新宿

〔講師：神谷 由紀子・浅黄 美彦〕

### 江戸城外堀以西の総称であった四谷は 豊かな自然地形の宿場

6月25日(日) 天気：晴 参加者：10名

〔四谷：江戸城外堀の内側は大名屋敷、外側は下級武士のまち〕今回は私の大学時代によく歩いた赤坂見附から四谷、四谷から新宿をご案内することにしました。このコースは、江戸城外堀を隔てて内側にあった紀伊徳川、尾張徳川、井伊彦根の江戸幕府中枢の大大名の屋敷町（紀尾井町）vs 外堀の外側に広がっていた江戸城警護の下級武士の居住地区との対比がよくわかることです。四谷はその名の通りいくつも谷があり、典型的な「スリバチ」地形の底に花街や貧しい人達の住居もありました。屋敷町もスリバチ地域も江戸の名残がはっきり見られるとても楽しいコースです。

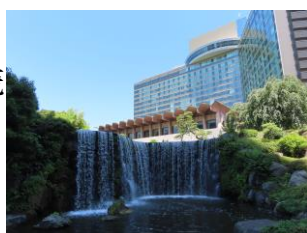


江戸切絵図 紀尾井坂  
出典：国立国会図書館、ROIS-DS人文学オープン  
データ共同利用センター

〔ホテルニューオータニ：井伊家→伏見屋邸→大谷米太郎邸〕赤坂見附交番で集合。赤坂見附は江戸時代の見張りの城門で、弁慶橋を渡る時に見附跡が見えます。ここから四谷見附までが紀尾井町です。橋を渡った右側が、今は赤坂プリンスホテルから「東京ガーデンテラス」となった井伊邸の屋敷跡です。奥の庭園から清水が湧き出たことから付近は「清水谷」と呼ばれています。

私たちは左側の井伊邸である「ホテルニューオータニ」に入り、エレベーターで5階の日本庭園へ。戦後「伏見屋邸」をホテル創業者の大谷が買い取って、荒れ果てた庭を岩城巨太郎の設計の元に改修しました。1964年の東京オリンピックのために自邸をホテルニューオータニに建設し、日本庭園もホテルの一部となりました。

池泉回遊式で東屋や灯籠など多々ありますが、一番のおすすめは5階分に相当する高低差を活かした大滝です。



ニューオータニの大滝（写真：田邊）

5階分上ってきたところに庭園があるため、立派な庭園を見た後はすぐ近くの出口から高低差なく四谷駅方面まで歩けます。この日は梅雨明け時の猛烈に暑い日だったのですが、お陰で気分よく次の目的地「上智大学」まで歩きました。上智生がデートにも使っている土塁の上のお堀端コースを正門まで歩きましたが、眼下には、地下鉄丸の内線が四谷で地上に出た時におなじみの、外堀を埋めたグラウンドが見えました。

〔上智大学とクルトウラハイム：尾張徳川中屋敷から陸軍大臣高島鞆之助邸、そして上智学院へ〕

上智大学は日本初のカトリック教会系大学です。かのフランシスコ・ザビエルがローマと日本に大学を建学したいと述べてから数世紀を経た1911年、教皇は大学を設立するために3人の宣教師を送って「上智学院」を設立しました。そこで土地と建物が必要になり、井伊屋敷の後に居を構えた陸軍大臣高島鞆之助や隣地の陸軍大将大島久直らの邸宅が選ばれました。最初は大学をすぐ始められず「クルトウラハイム（文化の家）」で社会人講座から始まりました。今でも高島邸であったクルトウラハイムは上智大学の中でも最古の明治時代からの建築物です。イエズス会が直に運営しており、今回は副館長のマイケル・ミルワード神父様に中をご案内いただくことができました。

〔クルトウラハイム：マイケル・ミルワード副館長のお話〕残念ながらクルトウラハイムの設計者はわかりません。1階は煉瓦作りですが、内装は日本風で暖炉の扉の絵などは日本画です。2階は木造で聖堂として使われており、上智出身者の結婚式やミサが行われています（ちなみに神谷もその一員です）。祭壇、後ろの屏風なども和風金の箔張りで、祭壇の真ん中に「SJ（Societas Iesu イエズス会）」と浮彫になっています。窓からは緑に囲まれた庭園が見え、都心とは思えない落ち着いた景色が広がっています。

最後に是非お見せしたい特別な部屋があります。スペインの美術史の専門家であった故神吉敬三教授が大塚国際美術館創設のプロジェクトとしてエル・グレコ衝立の復元に関わりました。そのモデルとして作成された縮小版を記念に贈られたのがこの部屋にあるもので、素晴らしいです。

（抜粋：神谷）



室内で神父にお話を聞く（写真：浅黄）



[ 聖イグナチオ教会から四谷見附へ ] ミルワード副館長にお礼を述べ、一番古い建築物クルトウラハイムから、1932年に関東大震災後に再建された二番目に古い1号館へ。当時そのままの廊下を抜けて、正門の隣にある「聖イグナチオ教会」に向かいました。フランシスコ・ザビエルを派遣したイエズス会創始者のイグナチオ・ロヨラの名を取った教会です。1945年に建設された建物は、大きなステンドグラスに囲まれたヨーロッパ風の教会で好きでしたが、残念なことに老朽化で1999年に坂倉建築研究所の設計によって新教会が設立されました。和風な空間も取り入れモダンな建築になっています。



上智大学を背景に聖イグナチ教会にて (写真：田邊)

四谷見附の明らかな見附の跡を横目に、上智生のお気に入りと言われている「しんみち通り」で、選ぶのに困るほど種類の多いレストランから安くて美味しいランチを食べた後、名物「わかば」のたい焼きをお土産に買い、ルンルンと午後の外堀の外側、浅黄さんの「スリバチコース」に繋がりました。 (文：神谷 由紀子)

## スリバチの聖地・荒木町に 大名屋敷跡地を巡る

午前中は外堀の内側、井伊家の「ホテルニューオータニ」、尾張家の「上智大学」を訪ねました。午後もし引き続き、外堀の外側にある「美濃高須松平摂津守の屋敷跡」、スリバチの聖地でもある荒木町へ。大名屋敷跡地を巡るフットパスコースとなりました。

尾根道の甲州街道沿いの町家から少し入ったところは、かつての旗本屋敷があった場所。明治になって屋敷の真ん中に路地が通され、町屋と長屋が作られ、現在も路地の両側に飲み屋と住宅が残って江戸の町割を感じさせるエリアでもあります。

高台にある江戸からの古い道を進むと、途中に谷へ下る大階段がある。最初に出合った階段は下らず、まずは荒木町の高台の縁を回り、すり鉢の大きさを確かめながら少しずつ下っていくのが、荒木町を味わうコツという。



荒木町の路地

「金丸稲荷神社」前の風情ある路地を進み、「津の守弁財天」を擁する「策（むち）の池」に下っていくと、途中には料亭がある。そこからすり鉢をぐるりと一周すると池の底にたどりつきます。今は滝壺跡に水底がわずかに残るのみですが、想像の世界を膨らませ四方を囲まれた1級スリバチの地を堪能しました。



策（むち）の池

真夏のような炎天下ゆえ、細道を10分ほど歩き左門町の「於岩稲荷」・「田宮神社」をお参りすると、さすがにぐったりしてきます。斜向かいにある「陽運寺」境内でかき氷をいただき、のんびりと夏バージョンのフットパスコースを楽しみました。

(文と写真：浅黄 美彦)





## 緑地管理

### 豊かな自然に触れる喜びや 緑の安らぎを分かち合うために

歴史的な「小野路宿」街並みから東に向かい里山に入れば、狭いながらも趣のある布田道がくねくねと遙か調布まで延びています。その導入部で布田道に接する竹林や緑地の里山景観保全を目的とし、豊かな自然に触れる喜びと静かな緑の安らぎを訪れる人々と分かち合いたいと思いながら、地道な管理作業を続けています。

2月27日(日) 天気：晴 参加者：7名

〔竹林整備〕「切通し」付近で、布田道に倒れ込んだ枯竹を根元から切断処理して通行者の安全を確保した。また枯竹が散乱する道脇も整理して、歴史的往還の美観回復を図った。

下段竹林では倒れた竹、傾いだ竹、立枯れ竹などが散在している。切断して下方の集積所に運ぶ力作業に皆で取り組み、酷く荒れた状況を相当改善することが出来た。

3月20日(日) 天気：曇 参加者：5名

〔竹林整備〕 昨年11月以来の竹林最終作業として、下段竹林で枯竹や落枝の整理、下段への下り路周辺の草刈りをした。また燃料として緑地の粗朶を短くして運搬、焚火後始末用の穴も掘った。参加者が少ないなか多岐の竹林準備作業を皆で懸命に行ない、野外食事会が出来る態勢を整えた。

タケノコ掘りは、前年から続く整備作業参加への“ご褒美”でもある。楽しい時を過ごすためにも、今後は整備作業への参加を呼び掛けたい。

4月10日(日) 天気：晴 参加者：8名

〔タケノコ掘り〕 当初は食事会も予定していたが、4月6日、現地偵察したところ頭が出たタケノコは殆ど見つからず足裏感覚で探す必要があったので、当日はタケノコ掘りだけを行うこととした。

4日後。陽当たりの良い上段部で頭を出したタケノコがそれなりに見つかり、皆で楽しく初物を掘り出すことが出来た。古参会員やゲスト参加者もあり、皆のタケノコに対する関心の高さを改めて感じた。周辺他所でも4月中旬以降が最適となる模様。

4月17日(日) 天気：晴のち雨 参加者：10名

〔タケノコ掘り〕 前日の雨で、“雨後の筍”の諺どおり、しっかり頭を出したタケノコが至る所で見つかり、直ぐにタケノコ汁調理に取り掛かれた。

焚火ではホイル焼きや焼きリンゴも出来上がり、久しぶりに皆で野外食事会を楽しんだ。食材や調理用具を準備していただいた方々に感謝します。

昨年の超貧作から打って変わり今年の当竹林は大豊作。これは周囲の竹林でも同様の状況のようで、採り切れない程のタケノコには正直驚いた。

4月23日(土) 天気：晴 参加者：約25名  
(当会関係12名+日本語学校関係13名)

〔タケノコ掘り〕 当会元監事の要請で外国人を含む日本語学校生徒家族と職員が参加され、過去最大のタケノコ・イベントとなり、春の竹林は大いに盛り上がった。豊作の年で参加者は充分満足されたようだし、怪我や混乱もなく無事に終わって何よりだった。来年以降はどうするか。

5月15日(日) 天気：曇 参加者：6名

〔緑地整備〕 タケノコ終了後は不要若竹を早く処理すべきながら、昨年手入れ不充分で苦勞した緑地雑草対策を優先的に実行した。緑地の全面的草刈りを実施するなか障害となるオオブタクサを片付けて、カナムグラが纏わりつく切り株をチェーンソーで倒した。

6月5日(日) 天気：曇 参加者：8名

〔管理方針協議〕 緑地草刈り時間が浮いたので、当会管理地である緑地、山地、竹林を巡り現状を再確認したうえで、場所毎に当面の管理方針につき参加者間で意見を交わし次のとおり決めた。

○緑地：草刈りされ整えられた現状を、個人的活動で出来る範囲で何とか維持する。

○竹林：緑地で得た余力をしばらくは竹林に投入して、草刈りや竹整理作業を実施する。

○山地：倒木対策以外は当面放置するが、冬場に余裕が出れば通路整備から始める。

○広報：里山の現状や管理実態について広報に努め、今後の参加者増加を期待する。

○イベント：竹林でのタケノコ会以外にも整備された緑地等を利用した活用策を探る。



緑地で会合（写真：浅黄）



### 「管理地の活用」

従来は里山景観保全を第一義として作業して来た。しかし「小野路宿ふるさとの森」へ訪れる人々と管理に携わる我々の双方が更に楽しい時を過ごせるよう、今後は管理地の多角的な活用策について会員皆で協議し、具体案を練上げて実行する方向で検討していきたい。

私案としては次のような活用方法を提案したい。  
(実現し易い順に列挙)

○里山散策会の実施：管理地周辺の里山道を整備し、市報公募によるウォークを実行する。当会発行マップを活用する里山ウォーキングとして会員勧誘の機会にもつなげる。

○自然観察会の企画：動植物愛好家の協力を得て管理地周辺の動植物観察会を実施する。まずは管理地で貴重種を含めた必要な知見を得たうえで、環境も整備し公募を掛ける。

○緑地懇話会の検討：緑地等で会員間や関係先との情報交換と懇親目的の集会をする。良い季節を選びレンタル用具等も活用のうえ緑豊かで快適な会場で懇話会を開く。

### 【恵泉女学園大学との協働作業報告】

同大学の休耕田再生活動に当会も協力関係を築いて来た経緯があり、ここ2年程はコロナのため学内限定化したが、今年から呼び掛け再開に応じて若干名が参加している。

2月21日(月) 約10名参加(当会からは1名)

【山地間伐】 当会緑地前から延びる支谷戸は両側が山に挟まれ陽当たりが良くないため、西側の同大学管理山地では冬場に間伐を進め谷戸田の日照条件を改善している。チェーンソーで除伐され更に短く切断されたサクラ、コナラ等を道脇にまとめ積み上げる作業を手伝った。

6月11日(土) 約30名参加(当会からは4名)

【田植え】 今回は直播きされた水苗代から苗を取り、予め機械で田作りされた水田に7～8人が一列に並び、張り紐に沿って手で植えた。主力は大学生と付属中高生徒ながら、当会からは会員家族3名(孫主体)と小生が参加。学生は田靴を履かず全員が素足で泥作業した。

(文：合田 英興)

### タケノコ掘りは大賑わい(4/23)

大豊作のタケノコ。ゲストの外国人留学生の中には、初めてのタケノコ掘り体験の楽しさを口々に。



「いっぱい採れたよ！」



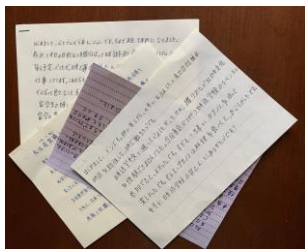
恒例、具だくさんのタケノコ汁は大人気。木の芽入り！



大量のタケノコを前に「全員集合！」。お土産付きです。



竹林でフデリンドウを発見！



ゲスト参加者からの  
お礼の手紙





# NPO法人「みどりのゆび」2022年9月～2023年3月 フットパス・スケジュール



持ち物：弁当 水筒 雨具 参加費：1000円（イベントによって変更あり） 申込：みどりのゆびHPまたは下記メール  
★変更などがある場合も。必ず事務局に確かめてからお出かけください。 ☎ 042-734-5678 📠 080-5405-3904（神谷）

先の読めないコロナや自然変異、4回目接種など準備して、今年はどんどん歩きたいですね。

●必ずお申し込みください。天候によって中止の場合もありますし、屋食の予約など保証できなくなります。

●申し込んでも事務局から何も連絡がない場合には、再度ご連絡ください。

メール：info-m@midorinoyubi-footpath.jp 電話：042-734-5678 FAX：042-734-854 携帯：080-5405-3904（神谷）

10月1日(土)

## 【集合】

井の頭線  
「浜田山」駅  
改札口前  
(地階)  
10:00AM

## 【昼食】

弁当持参または  
高井戸駅付近で  
各自で

申込締切

9月24日まで

『フットパス専門家講座：浜田山から千歳烏山へ／公園・川・建築をめぐる』

【講師：高見澤邦郎：最近整備された大公園と、100年前の震災で生まれた浴風園&烏山寺町を歩きます】

【内容】浜田山駅の南側に最近整備された大きな区立公園2つと、隣に誕生した超高級マンション街を訪ね、そのまま神田川沿いに高井戸へ出て（途中で松本清張旧宅や建替えられた杉並清掃工場など）、東京帝大総長・内田祥三設計の「浴風園」へ（震災後に国の肝いりで老人施設として開設）。その後広域避難地予定の都立高井戸公園（半分だけ整備された）を歩いた後、久我山方面へ向かい、「東八道路」の脇に何とか残った玉川上水を経て烏山寺町へ（「小京都」との呼称も）。ここには震災後下町から移ってきた25の寺院が立ち並び、緑につつまれて静か。まず鴨池を眺めます。それぞれに由緒ある寺院が並ぶので、お好きなところを訪ねてください。解散は京王線烏山駅にて3時頃を予定。長めのコースですがほぼ平坦。



浴風園本館



烏山の鴨池（高源院庭園）

10月22日(土)

## 【集合】

小田急線  
「片瀬江ノ島」駅  
改札口前  
10:00AM

## 【昼食】

海に見える店で  
（「魚見亭」か  
「見晴亭」など  
を予定）

申込締切

10月15日まで

『フットパス専門家講座：懐かしみながら最近人気再燃気味の江ノ島を歩く』

【講師：浅黄美彦：漁師町、門前町、遠足の地など、様々な顔をもつ江ノ島を楽しむ】

【内容】改築なったばかりの竜宮城のような片瀬江ノ島駅をスタートし、弁天橋の手前にある小広場で「三姉妹の女神」を見て、まずは定番の弁天橋からの富士山を眺める。東京オリンピック前に改築されたヨットハーバー「江ノ島ヨットハーバー」に立ち寄り、波のような屋根、テラスから江ノ島の風と海と空の青、現代の江ノ島を見ます。

青銅の参道の門をくぐり、江ノ島の神社群へ（中津宮、奥宮、時間があれば児玉神社）。時間と体力があれば、島の漁師町ばい路地を抜け、細い階段や坂を上る「スリパチ学会」推奨のコースもある。

昼食は見晴亭か魚見亭を予定、（たまに行くので定番ですがちょっと贅沢にという方はこちら、富士をみながらおにぎりでもそれぞれの好みで）。

午後は江ノ島のてっぺんにある庭園「サミュエル・コッキング苑」。これまた最近の定番の観光地で避けられる方も多いですが、これが案外面白いことを最近発見しました。温室跡の煉瓦の空間、展望台（江ノ島シーキャンドル）からの眺めは格別です。

体力が残っていれば海岸線まで下り、懐かしの岩屋へ。後はのんびりと片瀬江ノ島駅まで戻ります。

【コース】小田急線片瀬江ノ島駅（10：00）→②弁天橋 女神と富士山→③湘南ヨットハウス→①江ノ島神社参道→山の上の方で昼食（魚見亭、見晴亭など）→サミュエル・コッキング苑→海岸線岩屋→参道の土産物屋など→片瀬江ノ島駅（15：30）



小田急線片瀬江ノ島駅



江ノ島参道（昭和20年代）



|                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>11月5日(土)</b></p> <p>【集合】<br/>西武拝島線<br/>「東大和市」駅<br/>改札口前<br/>10:00AM</p> <p>【昼食】<br/>要弁当</p> <p>申込締切<br/>10月29日まで</p>             | <p>『フットパス専門家講座：東京都薬用植物園・玉川上水緑道 案内』<br/>【講師：山田隆彦：ちょっと珍しい植物園、秋の植物観察をしましょう】</p> <p>【内容】「東京都薬用植物園」では、このころサフランの花が咲いています。古代ギリシャではサフランの色素・黄色を珍重し、王族だけが使用を許されたといえます。また、アワコガネギク、シマカンギク、ヤマラッキョウ、ナギイカダ、アイ(染料に使用)が満開となっています。実をつけたカンレンボク(キジユ&lt;喜樹&gt;)、ゴシュユ、ユウガオ、ウオトリギなども観察いたします。その後、玉川上水緑道の植物を見ながら、玉川上水駅まで歩きます。</p> <p>【コース】東大和市駅→東京都薬用植物園内散策→玉川上水緑道散策→玉川上水駅</p>  <p>サフラン</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <p><b>11月19日(土)</b></p> <p>【集合】<br/>小田急線<br/>「渋沢」駅<br/>改札口前<br/>10:00AM</p> <p>【昼食】<br/>「手打ちそば<br/>さか間」予定</p> <p>申込締切<br/>11月12日まで</p> | <p>『他のまちのフットパスをみてみよう：丹沢の清流・四十八瀬川と秦野戸川公園を歩く』<br/>【講師：田邊博仁：表丹沢の台地に広がる里山風景と紅葉に癒される散歩コースです】</p> <p>【内容】リピート希望が多かった「丹沢の清流・四十八瀬川と紅葉の秦野戸川公園を歩き、音楽醸造蔵を訪ねる(2018.11)」をもう一度歩きます。</p> <p>渋沢駅をスタート、丹沢の清流・四十八瀬川の田頭橋へ。ここは“鉄ちゃん”の人気スポット、ロマンスカーを待ち構えてパチリ。ここから四十八瀬川沿い約2km、上流の才戸橋まで歩く。左手は四十八といわれる瀬と小さな滝の清流、右手は秋の田園風景、とても癒される里山風景の散歩道です。前回の参加のみなさまに、とても、喜んでいただけたコースです。</p> <p>次に、四十八瀬川を離れ、秦野の台地を歩きます。観光農園や田園風景、堀之郷正八幡神社、蔵林寺を経由して県立秦野戸川公園へ。かき揚げが評判の「手打ちそば さか間」で昼食を楽しみます。</p> <p>午後からは、秦野戸川公園のランドマーク“風の吊り橋”を渡り、表丹沢の山々と秦野の市街地の眺望、色づいた紅葉を楽しみましょう。そして「水無川緑地」を下り、県内最大規模の古墳群・桜土手古墳公園に立ち寄ります。さらに下って、「音楽醸造蔵 金井酒造店」の見学と試飲を楽しみます。丹沢の伏流水を使用した名酒、麹菌にモーツァルトの名曲の数々を聴かせた日本酒「MOZART」など試飲し、帰途に。</p> <p>【コース】①渋沢駅(10:00)→②四十八瀬川と周辺散策→③県立秦野戸川公園(昼食)→④水無川→⑤桜土手古墳公園→⑥金井酒造店見学と試飲(14:00)→バスで渋沢駅(15:30)</p>  <p>四十八瀬川の里山の小径</p>  <p>県立秦野戸川公園の風のつり橋</p> |
| <p><b>12月7日(水)</b></p> <p>【集合】<br/>小田急多摩線<br/>「唐木田」駅<br/>改札口前<br/>10:00AM</p> <p>【昼食】<br/>要弁当</p> <p>申込締切<br/>11月30日まで</p>             | <p>『フットパス専門家講座：多摩丘陵12古街道フットパス①<br/>八幡太郎・源義家が歩いた奥州古街道を歩く』<br/>【講師：古街道研究家 宮田太郎：中世小山田氏の馬牧跡と鶴見川水源地】</p> <p>【内容】多摩丘陵には12本の古街道がありました。古代から近代の絹の道まで、様々な様相を今に留めています。今回は平安時代の道「奥州古街道・八幡太郎の道」を中世小山田氏の里に探りながらフットパスしていきます。あまり知られていない下小山田の鶴見川水源地の晩秋を楽しみましょう。</p> <p>【コース】小田急多摩線「唐木田」駅→棚原城伝説地→平山城址からの鎌倉古道→奥州古街道(崖面の痕跡)→中世小山田氏の馬牧跡(的場跡・流鏑馬の馬場跡)→都立小山田緑地大久保分園→下小山田の鶴見川水源地→勝負塚→多摩よこやまの道→唐木田駅(15時半頃)。約5.5km。</p>  <p>小山田奥州古道から伝説の棚原城</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |



|                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>12月17日(土)</b></p> <p>【集合】<br/>東京メトロ、都営地下鉄<br/>「麻布十番」駅<br/>4番出口オスロコ-ヒー前<br/>10:00AM</p> <p>【昼食】<br/>現地レストラン</p> <p>申込締切<br/>12月10日まで</p>        | <p>『他のまちのフットパスをみてみよう；麻布十番はどんなまち？』<br/>【講師：みどりのゆび：麻布十番は六本木、広尾、白金、赤坂を繋ぐ】</p> <p>【内容】麻布十番は300年以上の歴史のある商店街です。麻布山善福寺の門前町、古川を中心とした交通の要所で馬市や馬場もあり、多くの大名の下屋敷や家臣の住まいもありました。また六本木や広尾、白金や赤坂にも15分ほどで歩ける面白い地理的位置にあります。いくつものスリバチ地形があり、多くの坂があります。各国大使館や庭園公園も多いエリアです。年末の1日を都心の洒落たまちをゆっくり歩いてみませんか。昼食、お茶、忘年会などコースの途中でいいところがたくさんあるので選んで入ります。<br/>【コース】麻布十番駅→六本木ヒルズ→有栖川公園→白金→麻布十番駅</p> <div data-bbox="462 450 841 734" data-label="Image"> </div> <p>宮村公園から六本木ヒルズ</p> <div data-bbox="984 463 1382 732" data-label="Image"> </div> <p>麻布十番商店街</p>                                                                                                                                                                                                    |
| <p><b>1月18日(水)</b></p> <p>【集合】<br/>京王線<br/>「堀之内」駅<br/>改札口前<br/>10:00AM</p> <p>【昼食】<br/>自由昼食</p> <p>申込締切<br/>1月11日まで</p>                              | <p>『フットパス専門家講座：多摩丘陵12古街道フットパス②<br/>京王堀ノ内から南大沢へ～大栗川に沿う大街道“古代甲州道”』<br/>【講師：古街道研究家 宮田太郎：東日本最大の複合遺跡群が眠る尾根の道】</p> <p>【内容】八王子市南部の堀ノ内地区から南大沢、多摩境に続くエリアは、東日本最大級の面積と濃密度を誇る多摩ニュータウン遺跡群（約千ヶ所）の中心エリア。縄文時代には 八ヶ岳・諏訪地方の一大文化圏と繋がり、丹沢の主峰に冬至の日に太陽が沈むことを観測していた祭祀遺跡も出土。また北海道函館近くの土偶と類似した土偶も見つかっています。古代には官衛的な遺跡や須恵器・木工の工房も作られていたこのエリアの魅力を2回にわたって探るフットパスです。<br/>* 第2回目は南大沢から多摩境へと進んでいきます。<br/>【コース】京王堀之内駅の改札口前に午前10時集合→せせらぎ緑道と奥州古道・蓮生寺道→源頼朝が保護した蓮生寺→蓮生寺公園→大田川流域の複数の飲食店で自由昼食→松木七郎の館跡と宝篋院塔→古代甲州道→多摩ニュータウンNo.107遺跡地と大石信濃守館跡→鮎街道（都立大キャンパス）→南大沢八幡神社→南大沢駅。約5.5キロメートル。解散は15時半頃を予定。</p> <div data-bbox="493 1223 849 1487" data-label="Image"> </div> <p>せせらぎ緑道</p> <div data-bbox="984 1223 1438 1487" data-label="Image"> </div> <p>源頼朝が保護した「常盤御前伝説の蓮正寺」</p> |
| <p><b>2月18日(土)</b></p> <p>【集合】<br/>小田急線<br/>「玉川学園前」駅<br/>改札口前<br/>10:00AM</p> <p>【昼食】<br/>「上海公司」にて<br/>(予約しますので“申込締切厳守”)</p> <p>申込締切<br/>2月11日まで</p> | <p>『フットパス専門家講座：我がまちのフットパスを再認識する』<br/>【講師：高見澤邦郎・浅黄美彦：成瀬尾根緑地と八幡平遺跡公園からの眺め】</p> <p>【内容】成瀬尾根は『まちだフットパスガイド2』にも紹介されている、町田の貴重な緑の尾根です。マップではこどもの国駅からすぐに尾根に取りつきますが、今回は玉川学園前駅から住宅地を探索しながら行きます。ランチは故・赤瀬川原平さん推奨の上海公司にて。午後は恩田川沿いを歩き、高ヶ坂団地を経て八幡平遺跡に上がります。ここには縄文中期の敷石住宅跡（国指定史跡）があり、昨春、整備・公開されました。その後芹が谷公園を経て町田駅へ。<br/>成瀬尾根山吹緑地から丹沢方面の、そして八幡平遺跡から横浜方面の展望が楽しみです（良い天候を期待して）。<br/>【コース】集合地→故・赤瀬川原平さんの「ニラの家」など学園の住宅地→成瀬尾根／山吹緑地→上海公司でランチ→恩田川→高ヶ坂団地→八幡平遺跡公園→芹が谷公園→町田駅で解散（15時）。</p> <div data-bbox="1037 1781 1443 2061" data-label="Image"> </div> <p>整備中の八幡平遺跡のHPより</p>                                                                                                                                                                                 |



|                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>3月24(金)</b></p> <p>【集合】<br/>JR「飯田橋」駅<br/>西口江戸城牛込見附跡前<br/>10:00AM</p> <p>【昼食】<br/>自由昼食</p> <p>申込締切<br/>3月17日 まで</p>               | <p>『他のまちのフットパスをみてみよう：お花見しながら、神楽坂をてくてく散歩』<br/>【講師：田邊博仁：外濠の桜並木のお花見と、神楽坂の街の成り立ちを知る】</p> <p>【内容】飯田橋駅から外濠桜並木のお花見を楽しみ、神楽坂の坂下から見て左手の台地（約20m）を歩きます。この地域は、旧武家屋敷街、現在は、神楽坂若宮八幡神社、光照寺（牛込城跡）、明治の文豪の旧居跡、大きな屋敷の住宅が多い。そして、神楽坂へ。左右には、いくつもの道筋「横丁」がのびています。左手は、芸者小路・熱海湯階段、見番横丁、毘沙門横丁から善國寺など。右手は、兵庫横丁、本田横丁、かくれんぼ横丁、芸者新道、神楽坂仲通り。そして、軽子坂を下り、外濠の神楽河岸跡へ。飯田橋駅へもどり解散です。江戸の古地図と現在の地図を比べながら、神楽坂の街の成り立ちを知りましょう。</p> <p>【コース】JR飯田橋駅西口の江戸城牛込見附跡(10:00)→外濠公園→新見附橋→アンスティチュ・フランセ東京（旧東京日仏学院）→神楽坂若宮八幡神社→光照寺（牛込城跡）→熱海湯階段→見番横丁→善國寺毘沙門天→森戸記念館→兵庫横丁→本田横丁（かくれんぼ横丁、芸者新道）→神楽坂仲通り→軽子坂→神楽河岸跡→JR飯田橋駅（15:30頃）</p> <div data-bbox="397 562 889 860">  </div> <p>外濠の桜並木</p> <div data-bbox="990 562 1388 860">  </div> <p>飯田橋駅と牛込見附跡の桜並木</p> |
| <p><b>3月29(水)</b></p> <p>【集合】<br/>京王相模原線<br/>「南大沢」駅<br/>改札口前<br/>10:00AM</p> <p>【昼食】<br/>多摩境駅付近で<br/>自由昼食</p> <p>申込締切<br/>3月22日 まで</p> | <p>『フットパス専門家講座：多摩丘陵12古街道フットパス③<br/>南大沢から多摩境へ～縄文人がたどった交易の道・古代甲州道』<br/>【講師：古街道研究家 宮田太郎：八ヶ岳・諏訪地方と繋がっていた祭祀場】</p> <p>【内容】八王子市南部の南大沢から多摩境に続く古代甲州道が越えた丘「内裏峠」こそが、東日本最大級の面積と濃密度を誇る多摩ニュータウン遺跡群（約千箇所）の中で最も使われた峠でした。縄文時代には八ヶ岳・諏訪地方の一大文化圏と繋がり、丹沢の主峰に冬至の日に太陽が沈むことを観測していた祭祀遺跡も出土。また北海道函館近くの土偶と類似した土偶も見つかっています。数千年にわたる歴史を支えた尾根の古道をフットパスしていきます。</p> <p>【コース】京王相模原線「南大沢」駅改札口前→輪舞歩道橋→赤石尾根→古代甲州道→尾根緑道と戦車道路→多摩境駅付近のファミレス等で自由昼食→縄文祭祀遺跡・田端環状積石遺構→律令時代須恵器窯跡推定地→絹の道の浜見場→鮎街道→小山内裏公園→多摩境駅。<br/>約5.5キロメートル。解散は15時半頃を予定。</p> <div data-bbox="1047 1159 1404 1435">  </div> <p>多摩境内裏峠越え古代道</p>                                                                                                                                                                                                         |

●お試し参加のお勧め/初回は参加費無料。お申し込みを。

# 「みどりのゆび」2022年9月～2023年3月 CSAスケジュール

★雨天では、必ず事務局に確かめてからお出かけください。  
集合：現地10時 持ち物：弁当、水筒、軍手、長靴（必要なら）

| 2022,23年                                                                                                                             | 「緑と農の管理」                                                                                                           | 管理作業の場所 案内図                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>9/19 (月、祝)</p> <p>10/8 (土)</p> <p>10/16 (日)</p> <p>11/13 (日)</p> <p>12/11 (日)</p> <p>1/15 (日)</p> <p>2/26 (日)</p> <p>3/19 (日)</p> | <p>竹林管理の講演会、参加無料<br/>詳細はHPで<br/>恵泉 稲刈り</p> <p>竹林作業</p> <p>竹林作業</p> <p>竹林作業</p> <p>竹林作業</p> <p>緑地作業</p> <p>緑地作業</p> |  |



## NPO法人みどりのゆび ホームページのご紹介

2021年から、ホームページをリニューアルいたしました。ウェブ検索にて「NPO法人みどりのゆび」と挿入すると、右記のホームページが開きます。

上部の各項目の▼をクリックすると、さらに、各種のご案内が開きます。

●「イベント」では各種イベントの、スケジュール、カレンダー、申し込みが開きます。

●「活動の記録」では会報、活動レポートが開きます。

●「みどりのゆび概要」では、会のご紹介、沿革、入会申し込みなどが開きます。

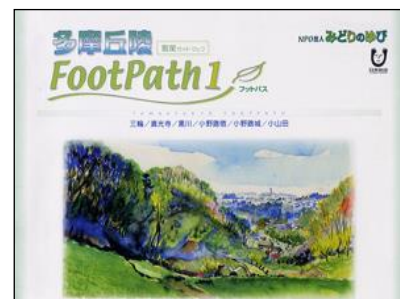
●「お知らせ」では、新着情報、掲示板が開きます。掲示板では、みなさまの投稿が可能になりましたので、ご活用ください。

## フットパスガイドマップ 4冊（改訂版発行有）

町田市地域には、フットパスにふさわしい昔ながらの里山風景、雑木林、田畑、古街道、歴史の面影などが随所に残されています。

魅力あるフットパスコースを町田市と協働で開発してフットパスガイドマップとし、「多摩丘陵FootPath1」¥500+税、「多摩丘陵FootPath2」¥500+税、「まちだフットパスガイドマップ」¥800+税、「まちだフットパスガイドマップ2」¥700+税 の4冊を刊行しています。

市内の書店でのご購入、または、事務局へお申し込みください。



### NPO法人「みどりのゆび」

- ・事務局 : Tel 042-734-5678 Fax 042-734-8954 Email info-m@midorinoyubi-footpath.jp
- ・ホームページ : <http://www.midorinoyubi-footpath.jp/>
- ・Facebook : <https://www.facebook.com/midorinoyubi.footpath>